

千葉市幼保小連携・接続モデル実施園 取組事例集

(平成29・30年度)



千葉市こども未来局

平成31年3月

紹介事例一覧（目次）

■アプローチカリキュラムの実践

- ①付箋を活用した保育内容における「10の姿」の整理（あやめ台幼稚園）【P3】
- ②縦割り保育における学年を意識した指導計画の見直し（幕張第二保育所）【P4】
- ③指導計画見直し・作成後も、随時手書きで書き込み「生きた月案」に【P5】
（ひまわり幼稚園）
- ④「ウェブ図」をつかった保育の可視化による効果的な振り返り【P6】
（宮野木保育所）
- ⑤近隣の小学校・園の先生を招いた公開保育によるカリキュラムマネジメント【P7】
（幕張第二保育所）

■小学校との連携・交流

- ①近隣小規模園合同による小学校訪問（アストロキャンプ稲毛東保育園）【P8】
- ②近隣小学校を会場にした小学校の先生参加の勉強会【P9】
（アストロキャンプ稲毛東保育園）

■家庭向けの啓発・支援

- ①近隣小学校長を招いた年長児保護者向け講話会【P10】（若竹保育園）
- ②就学先の全小学校の写真や子どもたちのメッセージを掲示した「小学校コーナー」
【P11】（ひまわり幼稚園）
- ③「壁新聞」による保護者とのコミュニケーション【P12】（宮野木保育所）

■参考

その他各モデル実施園で行われた取組事例【P12】

<本事例集について>

この事例集は、千葉市が文部科学省受託事業「幼児教育の推進体制構築事業（平成 28～30 年度）」において、平成 29・30 年度に市内の私立幼稚園、民間保育園、公立保育所をそれぞれ幼保小連携・接続「モデル実施園」として指定し、各園で取り組んだアプローチカリキュラムの作成・見直しや小学校交流・連携などの取組の中から、特徴のある取組をとりまとめたものです。

素晴らしい取組が多くありますので、少しでも多くの園の方にも共有していただくことを目的に作成しました。

皆様に取組内容をより分かりやすく伝えるため、園からのコメントのほか、モデル実施園における各種取組実践にあたり、ご助言いただいた本市と連携する千葉大学教育学部幼児教育教室の幼保小接続カリキュラムコーディネーター3名の先生方のコメントも併せて掲載していますので、各園での取組の際の参考として活用いただけますと幸いです。

取組事例紹介

■アプローチカリキュラムの実践

①付箋を活用した保育内容における「10の姿」の整理

<取組内容紹介（あやめ台幼稚園）>

アプローチカリキュラムの作成にあたり、年長組経験のある教職員でプロジェクトチームを結成し、これまでの保育（10月～3月）の中で、どのような援助、配慮、環境構成をしてきたかを、個々に書き出した。

書き出したものを月・週ごと、活動内容ごとで分類し、配慮や環境構成が10の姿のどの項目に強く当てはまるかを書き加え、月ごとに考察して共通理解につとめた。

考察した内容をデータ化し、またカリキュラムの形式についても話し合いで決定。従来の指導計画を参考に、月案・週案が一緒になった形式となった。

しかし、段階を経て経験する活動・行事などについては記載しやすい反面、生活面など継続して指導する内容についての記載が難しく、「生活について」（1月からは「月をとおして）」としてまとめて記載した。

事前活動に重点を置くようになり、子どもの考えを引き出せるように意識したほか、活動が終わった後もいろいろなことに繋がられると分かって活動を広げられるようになった。



【園からのコメント】

指導計画を作るにあたり、コーディネーターの先生からは、「実際に使う教員たちが使いやすい形式に作るのが一番いい」「これで完成ではないし、変わっていったいい」とアドバイスを受けたことで、まずは今できることを第一歩として進めてみようと思うことができた。

自分たちがしている援助や配慮が、子どものどのような育ちや姿につながるか意識するようになり、様々な保育場面で考えながら声掛けをするようになった。



撮影：渡辺 悟
あやめ台幼稚園
主任 木村先生

【コーディネーターからのコメント】

モデル実施園として、園全体で熱心に取り組んだことで、あやめ台幼稚園が最も大きな収穫を得たと思う。

素晴らしい点は、アプローチカリキュラム作成の最初の段階で、自分たちの経験をもとに10月以降の取組みを付箋に書き出し、経験の再構成を行ったこと。

等身大の自分たちの活動を洗い出してみるという真摯な取組姿勢は、先生たちの成長につながっている。

（千葉大学教育学部 教授 富田久枝先生）

②縦割り保育における学年を意識した指導計画の見直し

< 取組内容紹介（幕張第二保育所） >

千葉市の公立保育所では、縦割り保育を実施しているため、3・4・5歳の3学年共通の環境設定の中で生活や遊びを展開しているため、「内容」や「環境設定」は3学年共通となっていた。

アプローチカリキュラムの作成にあたり、縦割り保育のメリット・デメリットを今一度整理し、どのように月の指導計画に落とし込んでいくかを3、4歳の担任を含めて検討した。

子どもたちにどのように育ってほしいのかという視点が記載されておらず、保育者主導の指導計画になっていることに気付いた。

そのため、「内容」や「環境構成」を学年別に記載し、これまでここに配慮していたことを、「学年」で意識できるように見直した。

月案様式の変更では、3歳から5歳を横に並べることで育ちのつながりが分かるように年齢ごとに記載をしたことで、同じ活動でも何にねらいをもっているのかが分かり、どのように援助をしたらよいか、考えて保育を行うようになった。

	3歳児			4歳児			5歳児		
活動の切り替えがスムーズで、保育者へ声を掛けながら自分の身の回りのことを自分でしようとする姿がある。	活動や年中児の姿を見てルールのある遊びや興味遊びに興味を持ち、参加しようとする姿がある。	友達や年中児の関わりを通して簡単なルールのある遊びや、興味遊びを楽しんで参加する。	やりたいことや、してほしいことを言葉で知らせる。	自分の関心が高くなっており、大人が遊ぶ事を楽しんでいる。遊びの仲間を増やしたいという声が多くあり、友達を遊びに誘い、誘われている。また、今まで遊びに誘ってもなかなか参加しなかった子が、友達が誘い遊ぶ姿を見て、「仲間に入れて」と自分から参加するようになった。その一方で遊びの途中で自分の都合の良いように遊びを変えようとする姿もある。	遊びの関心が高くなっており、大人が遊ぶ事を楽しんでいる。遊びの仲間を増やしたいという声が多くあり、友達を遊びに誘い、誘われている。また、今まで遊びに誘ってもなかなか参加しなかった子が、友達が誘い遊ぶ姿を見て、「仲間に入れて」と自分から参加するようになった。その一方で遊びの途中で自分の都合の良いように遊びを変えようとする姿もある。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。	
活動や年中児の関わりを通して簡単なルールのある遊びや、興味遊びを楽しんで参加する。	やりたいことや、してほしいことを言葉で知らせる。	自分の関心が高くなっており、大人が遊ぶ事を楽しんでいる。遊びの仲間を増やしたいという声が多くあり、友達を遊びに誘い、誘われている。また、今まで遊びに誘ってもなかなか参加しなかった子が、友達が誘い遊ぶ姿を見て、「仲間に入れて」と自分から参加するようになった。その一方で遊びの途中で自分の都合の良いように遊びを変えようとする姿もある。	遊びの関心が高くなっており、大人が遊ぶ事を楽しんでいる。遊びの仲間を増やしたいという声が多くあり、友達を遊びに誘い、誘われている。また、今まで遊びに誘ってもなかなか参加しなかった子が、友達が誘い遊ぶ姿を見て、「仲間に入れて」と自分から参加するようになった。その一方で遊びの途中で自分の都合の良いように遊びを変えようとする姿もある。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。	行事や経験活動、自由遊び等で必要な物を確認して準備し、活動で使う時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。また、活動が中断した時に必要な道具が揃っている。		
活動の内容	環境設定	手配される子どもの姿	活動の内容	環境設定	手配される子どもの姿	活動の内容	環境設定	手配される子どもの姿	
3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	

【コーディネーターからのコメント】

接続期のカリキュラムなどは、作成することで満足してしまう面があるが、保育士の想いを実現していけるような指導計画を考えること、保育を活かすことができる指導計画が求められている。幕張第二保育所では、どのような指導計画が最も適しているかを良く考え、短い期間に何度も様式を変更したことは素晴らしい。

今後どのように取組みを継続するかについて、その時の成果を踏まえて保育のハードルを上げてしまいがちになるが、年ごとに事情も変わるので、無理がなく細く長く継続できるような、小学校との交流計画や指導計画を立てて、それによって連携・接続が定着するように、カリキュラムの見直しを継続的に行っていくことが大切だと考える。

(千葉大学教育学部 教授 松寄洋子先生)

③指導計画見直し・作成後も、随時手書きで書き込み「生きた月案」に

<取組内容紹介（ひまわり幼稚園）>

以前の月案は、行事を中心とした実施することを書くだけの簡単なつくりで、保育内容は伝承・口頭で実施していたが、モデル実施園の取組として、「千葉県版アプローチカリキュラム作成の手引き（平成30年3月）」を参考に、園の保育を見つめ直し、10の姿のどこに当てはめるかを考えながら月案の見直しを実施した。

細かく書くといくらでも書いてしまうが、ポイントがわかりにくくなることから、10の姿や保育のねらいに合致した内容、精選化、焦点化することを心掛けるとともに、小学校接続へのアプローチポイントと考えられるものに記号を付けた。前月末のこどもの姿から、年間計画や月のねらいを踏まえて活動内容や環境構成を考え、子どもの予想される姿を考えた。特に年長児は10の姿のどの部分に当てはまるかを考えた。

ACは作成して終わりではなく、実際に活用できる生きた指導計画とするため、常に振り返りを実施。具体的には変更や訂正は青ペンで、今後の改善点は赤ペンで、反省点は黒ペンで書くことで、気が付いた時にすぐに振り返り、反省ができるようになった。

平成30年度 年長(5歳児) 11月指導計画【アプローチカリキュラム】 ひまわり幼稚園			
前月案の子ども達の姿	行事・経験・活動	月・園のねらい	特色ある教育・保育
<ul style="list-style-type: none"> 運動会を通して、みんなで活動する達成感や充実感を味わい、活動計画性になってきた。 月案として考えた活動内容より、子ども達の興味や関心を満たすように、月案を柔軟に変更して実施し、活動計画性を持って実施された。 月の目標にふれ、達成感や充実感を味わった。 月の目標にふれ、達成感や充実感を味わった。 月の目標にふれ、達成感や充実感を味わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 2日(月) 園外活動(10月) 12日(月) 園外活動(10月) 17日(月) 10月 運動会 27日(火) 秋祭り(10月) 29日(水) 秋祭り(10月) 30日(木) 秋祭り(10月) 31日(金) 秋祭り(10月) 31日(金) 秋祭り(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生の関わりを認めながら、様々な活動や行事に意欲的に取り組む。 園外活動で小学校に行くことに関心をもち、自分の行く小学校について知り、だけでなく友達も楽しんでいる。 発表の場に向け、発表の準備をして発表の場を味わうとともに、友達と一緒に発表する楽しさや楽しさに気づく。 相手の話を注意して聞いたり、理解したりして、言葉による関わり合いをもち、（1）(2)歳 いろいろな立場や目線から、身近に働く人々の関心を高め、活動の気持ちをもつ。（3）(4)歳 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育・保育 【漢字のよみ】 漢字のねらい 【読書】 小さい絵本から読み始める 【お話し】 お話のねらい 【製作】 秋祭り(10月) 【体育】 秋祭り(10月)
内容	環境構成	予想される子どもの姿	運動・配慮
<ul style="list-style-type: none"> 10の姿のねらいに合致した内容、精選化、焦点化することを心掛けるとともに、小学校接続へのアプローチポイントと考えられるものに記号を付けた。 前月末のこどもの姿から、年間計画や月のねらいを踏まえて活動内容や環境構成を考え、子どもの予想される姿を考えた。特に年長児は10の姿のどの部分に当てはまるかを考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外活動の前には、子ども達の興味・関心に応じて活動内容を変更する。 園外活動の前には、子ども達の興味・関心に応じて活動内容を変更する。 園外活動の前には、子ども達の興味・関心に応じて活動内容を変更する。 園外活動の前には、子ども達の興味・関心に応じて活動内容を変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の行く小学校に関心を持って、友達や先生と話し合ったりする。 自分の行く小学校について知り、友達も楽しんでいる。 発表の場に向け、発表の準備をして発表の場を味わうとともに、友達と一緒に発表する楽しさや楽しさに気づく。 相手の話を注意して聞いたり、理解したりして、言葉による関わり合いをもち、（1）(2)歳 いろいろな立場や目線から、身近に働く人々の関心を高め、活動の気持ちをもつ。（3）(4)歳 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校一年生に指導している家庭や幼稚園で習った活動や遊びを思い出して、自信を持って取り組む。 自分の生活の中で子どもの姿や活動の様子を思い出して、自分の活動の様子や感想を話し合ったりする。 自分の生活の中で子どもの姿や活動の様子を思い出して、自分の活動の様子や感想を話し合ったりする。 自分の生活の中で子どもの姿や活動の様子を思い出して、自分の活動の様子や感想を話し合ったりする。

【園からのコメント】
 60年以上の歴史のある当園では、保育計画の立案において、口伝や記憶に頼ってきた部分も多かった。今回、大幅に指導計画の見直しを行い、その過程ではかなりの労力・時間を要したが、可視化したことで、「10の姿」を意識しやすくなり、保育者間での共有認識や理解が深まった。
 接続期の年長の指導計画だけではなく、年中・年少も見直しを行なった。園全体で議論し、課題を明確にするなど、今までの保育を見つめなおす良い機会となった。



ひまわり幼稚園
 主幹保育教諭
 竹内先生

【コーディネーターからのコメント】
 私立幼稚園として伝統や特色ある幼児教育を行ってきたなかで、今回のモデル実施園の取組において、自らの保育の課題を洗い出して可視化し、保育内容を見つめ直したことは、とても勇気のある事だと思う。
 まずは各園での課題を把握してほしい。自らの保育を見つめ直し、記憶や伝承であった保育を可視化することで課題を把握しやすくなり、手だてが具体的となる。「千葉県版アプローチカリキュラム作成の手引き」にあるように、新たにカリキュラムを作るのではなく、現在各園で使用している月案を見直すことが重要である。さらに、ひまわり幼稚園では、月案に手書きで随時、反省や振り返りを書き込むようにしたことで、日々の保育での振り返りや積み重ねが園内全体で共有化され、反省や改善を行いながら真に活用される月案（アプローチカリキュラム）となった。そのことが根拠と見直しをもった援助や環境構成につながる。
 (千葉大学教育学部 教授 砂上史子先生)

④「ウェブ図」をつかった保育の可視化による効果的な振り返り

<取組内容紹介（宮野木保育所）>

「千葉県版アプローチカリキュラム作成の手引き（平成30年3月）」を参考にし、月案の現状を総括主任保育士、年長担当保育士で見直しをした結果、子どもの姿から指導計画が立案されていないこと、指導計画を通して実際の保育とその経過が見えにくいことが課題であることがわかった。

課題を踏まえ、9月に月案の見直しをする際、子どもたちの経験がどのような育ちにつながっているか、10の姿を視点として、付箋に書き出して整理をした結果、子どもたちの姿を通した具体的な月案の振り返りや反省につながった。様式自体も、5歳児のみの様式に変更をしたり、直接書き込みができるようにフリースペースを確保する等工夫した。

コーディネーターから、子どもの経験や発言等を可視化することの重要性について助言を受けたことから「ウェブ図」をもとに試行。「予想されるこどもの姿」、「保育者の配慮・環境構成」をあらかじめ記入したうえで、実践・振り返りとつなげられるようにした。

子どもの興味・関心の動きや経験内容などのプロセスを図式化、可視化することで、子どもの予想される姿を保育者間で共有でき、それらに対する具体的な環境構成や保育の振り返りができたほか、保育者の「子どもの思いを読み取ろうとする意識」が高まり、保育の質向上につながった。また、これらの経過を可視化することで、保育者が保育のプロセスを構造的に他者に伝えられるようになり、保護者への保育のアピールにもつながった。



【園からのコメント】

取組当初は、活動後に子どもの姿やそれらに対する保育者の関わりを記入していたが、コーディネーターの先生から、子どもたちの学びを事前にある程度予測、記入し、その内容に対して実際の子どもの姿から修正をしていくことで、保育者の“子どもの気持ちを捉える力”につなげるべきと助言をいただいた。そのため、やり方を見直し、事前に予想した以外の子どもの姿、それに対する保育者の働きかけをその都度書き入れていったことで、子どもの心の動きがより見えるようになり、子どもへの理解が深まった。

また、保育者が遊びの連続性や発展性を意識し見通しのある保育を行うことで、子どもたちの学びの広がりを実感することもできた。

ウェブ図作成を通して、「記録としての振り返り」や「保育者同士での子どもの姿や保育内容の共有」を行うことができ、次に活かせる指導計画の作成、PDCAサイクルの確立につながることを学んだ。



宮野木保育所
総括主任 大町先生

【コーディネーターからのコメント】

宮野木保育所では、モデル実施園の取組で付箋を使用しながら保育所全体で改善する姿勢が見られたことが良い点。学びの物語を可視化で来ており、どのような学びをしているのか壁新聞を通して保護者や園児、保育者が共有できた。

ウェブ図を作成することで、子どもの思いを見とり、具体的な環境設定や予測する力が身についていく。宮野木方式でなくても、各園独自で実施しやすいフローチャートや図式化することで保育を可視化すると良い。各園ができることから実施してほしい。

宮野木保育所では、月案様式についても振り返りがしやすくなるように改訂をしており、次月の月案に活かせる内容となった。その園の改善意識はとても素晴らしい。

(千葉大学教育学部 教授 富田久枝先生)

⑤近隣の小学校・園の先生を招いた公開保育によるカリキュラムマネジメント

＜取組内容紹介（幕張第二保育所）＞

モデル実施園 1 年目の際には、市こども未来局主催の公開研修会が園で開催されたが、次年度以降は市こども未来局主催の公開研修会は行われないため、保育内容を近隣小学校、園に見てもらおう機会を作ろうと考えた。

保育参観後、意見交換を行う時間を設け、他園や小学校の先生からの貴重な意見をいただき、カリキュラムマネジメントの参考とした。



【園からのコメント】

指導計画については 毎年度検証を行っていくことが必要と考えている。内容等の項目や10の姿の捉え方、子ども主体であったかなどの視点からも、受け入れ側の小学校の意見も取り入れ 反映させていければと考えている。

小学校入学の卒園児の様子を参観したり、今回のような近隣小学校や他園を招いた公開保育の際に意見交換を行うことで、カリキュラムマネジメントの参考とすることで、アプローとカリキュラムを作って終わりではなく、常に指導計画の検証・見直しを行うことで、より良い保育を行えるようにしていきたい。



撮影：渡辺悟

幕張第二保育所
総括主任 安田先生

■小学校との連携・交流

①近隣小規模園合同による小学校訪問

<取組内容紹介（アストロキャンプ稲毛東保育園）>

これまでの小学校との交流は、近年開園した小規模園ということもあり、近隣の小学校の生活科での行事に招かれて参加する、いわゆるイベント的な形のもので年1回学校へ行くだけであった。

モデル実施園の取組で、日頃近隣の小規模園と合同で公園交流（戸外活動）をしていたこともあり、公園交流のグループ合同で校庭見学をさせてもらうことを小学校へ連絡し、初めてイベントではない普段の小学生の生活を見させてもらった。



その後、園児たちが小学校への意識が高まりを見せたため、2度目は校舎探検として小学校を再度訪問した。訪問後には、園児の感想をまとめて小学校へフィードバックすることで、園と小学校の職員間の交流の機会にもつなげることができた。

行事的なものではなく、校庭や校舎を見学するだけであれば、園、小学校の双方に負担も少なく、交流を継続していけることが分かった。



【コーディネーターからのコメント】

都市部の駅前などでは、少人数、園庭なしの小規模な保育園が増えてきている。小規模な保育園では、大規模な保育園でやっていることを真似しようと思ってもできないこともあるので、真似をするのではなく、小規模ならではの園だからできることをやるとよいと助言した。

日頃から公園交流として近隣小規模園が集まり、大規模園と同様に大人数での活動を行っていることを活かし、今回はその活動単位で初めて行事以外で小学校を訪問した。

都市部では就学先の小学校が10を超える園もあるが、各小学校でその特色に違いがあるが、子どもたちは小学校に就学するので、小学校の日常を見ることは子どもたちの興味関心を高めるためには重要なことなので、就学先の小学校でなくともぜひ小学校の日常をぜひみてほしい。

(千葉大学教育学部 教授 松崎洋子先生)

②近隣小学校を会場にした小学校の先生参加の勉強会

<取組内容紹介（アストロキャンプ稲毛東保育園）>

学校の先生が園を訪問するなどして、保育について園の先生と意見交換をする機会はこれまでなかった。

モデル実施園の取組で、他の園との合同勉強会を行う際に、小規模園主催で、会場となる部屋が無かったことから、近隣の小学校に会場の部屋を貸してもらえようをお願いし、会場となる部屋をお借りすることになった。

勉強の際には、校長先生と教務主任の先生にも勉強会に参加いただき、幼保の取組について共有でき、小学校の立場からのお話を聞くことができた。



【園からのコメント】

今回の勉強会では、校長先生・教務主任の先生から小学校側の立場から話をきくことができ、大変有意義な勉強会となった。

一度学校の先生を園での勉強会に招こうとしたが、日程が合わなく実現できないことがあった。今回たまたま会場の都合もあり、結果的に小学校での開催となったが、小学校の先生がとても忙しいこと考えると、園から学校を訪問し意見交換の方がかえって望ましい場合があるのだと感じた。

特に歴史の浅い小規模園では小学校や地域との関わりが幼稚園などと比べて希薄なところがあることから、小学校との「おたより交換」や学校訪問など、日頃から小学校との関わりを増やし、継続的な関係性を築いていくことが大切なのだと思う。



アストロキャンプ 稲毛東保育園
園長 大場先生

【小学校からのコメント】

幼保は、様々な実施主体者がいることから、小中よりさらに連携が重要と考えている。小学1年生になると赤ちゃん返りしてしまうと言われているが、この部分はまさしく幼保小での連携・交流が必要で、小学校側においても幼児期の教育・保育を理解することが大切。

子ども同士の交流のみならず、教員同士の交流や双方の施設見学、お互いの教育について話し合う必要性も非常に感じている。

幼保の子どもたちの学校訪問について、特定の園のみで実施することが難しいため、小学校側から声掛けするのはなかなか難しいが、逆に幼保側から見学に行きたいと学校へ連絡をいただくと受け入れをしやすい。その際には各園でバラバラに来るのではなく、近隣園などである程度の集団で訪問してもらえると学校側としては対応しやすい。

幼保の皆さんには小学校へ見学に来てほしいので、連絡を小学校へ積極的にしてもらいたい。
(稲丘小学校 校長 岩原先生・教務主任 鈴木先生)

■家庭向けの啓発・支援

①近隣小学校長を招いた年長児保護者向け講話会

<取組内容紹介（若竹保育園）>

若竹保育園では、子育ての楽しみや悩みなど、みんなが興味関心のあることについて、みんなで考える機会になればと園で定期的に講話会を開催している。

今回、近隣小学校の校長先生を園に招き、年長児の小学校接続に向けて、就学までの過ごし方や学校生活についてのお話しをしてもらう機会を初めて設けた。

これまでも、就学に向けての「おたより」を年長児家庭向けに配布をおこなっていたが、小学校の校長先生のお話を直接聞くことで、より理解を深められると考えて企画した。

当日は、保護者約と園の保育士約 40 名が集まり、校長先生からスタートカリキュラム、小学校までに幼児期に体験したらよいこと、地域と家庭の協力が必要なことなどをお話しいただき、就学に向けての理解を深めることができた。



【園からのコメント】

平成 29 年度のモデル実施園の取組で、アプローチカリキュラムを作成したことで、担任間で 10 の姿を意識する保育について話し合うようになってきている。保育のねらいが明確になり、準備をする意識も高まっている。

アプローチカリキュラムの取組では、10 の姿について、今後どのように小学校へつなげていくべきか、また、地域とのつながりについてどのようにすべきか深く考える機会となった。

保護者への小学校接続や保育内容について理解を深めるために、当園では保護者へはクラス便りに写真を使用している。園の入口に各クラスのお便りも掲載している。

小学校との連携強化として、教員同士の交流を実施していきたい。学校からの誘いを待つのではなく、当園から積極的に声掛けをしてみたい。今後も校長先生に働きかけ、幼保小連携について大事なことであることを校長間の引継にしてもらえるような文化を作っていきたい。



撮影：渡辺悟

若竹保育園
副園長 山崎先生

【小学校からのコメント】

幼保と小学校との接続はとても大切。幼保で年長にもなると年中・年少の下の子の面倒をみたりできていたのに、小学校に入ると 1 年生は赤ちゃん扱いされてしまう部分もある。せっかくの育ちの連続性を確保するためにも、園でお兄さん・お姉さんだった時の自信を引き出す取組が小学校でも必要で、そのためには小学校の先生が園に行き保育を見ることとよいと思う。逆に園の先生にも小学校に行き以外の普段の子どもの姿を見に来てほしい。

勉強は小学校に入ってからでも大丈夫なので、幼児期には幼児期らしい活動にたくさんチャレンジしてもらいたい。「なんでもやってみよう」という気持ちが大切。そして、小学校に入った時には、困ったときに「困った」「助けてほしい」と言えると良いと思う。

（若松小学校 校長 根本先生）

②就学先の全小学校の写真や子どもたちのメッセージを掲示した「小学校コーナー」

＜取組内容紹介（ひまわり幼稚園）＞

ひまわり幼稚園では、年長児約40人が毎年15前後の小学校へ就学することから、就学先の小学校の写真を撮りに行ったり、各学校のホームページから集めたりして、すべての就学先の小学校の写真を小学校コーナーとして掲示を行った。これはモデル実施園として取組として初めて実施した。

11月から各小学校で実施される就学時健診を機に子どもたちや保護者の就学への関心が高まることから、保育室に「小学校コーナー」を設け、就学先の各小学校の写真を掲示した。



掲示した写真を見て、子ども同士で話し合う姿も見られた。そのため、就学先ごとに園児の名前を掲示し、就学時健診で感じたことを吹き出し型の紙に書いて貼るようにしたところ、子どもたちで気づいたことを話し合う姿が見られた。子どもたちだけではなく、園内に常時掲示し、保護者にも掲示を見てもらうことで、家庭でも小学校の話ができるようになり、就学への意識高めることができた。

【コーディネーターからのコメント】

都市部の園の小学校就学においては、ひまわり幼稚園と同様に、卒園児が複数の小学校に就学している状況がある。各園が近隣小学校以外の複数の小学校と行事や訪問による交流・連携を行うことは現実的には難しいが、近隣の小学校とこまめに交流することが大事。

同時に、今回のひまわり幼稚園での取組のように、就学先の各小学校の写真を掲示し、その写真や就学時健診の際の様子を子ども同士で比較して話し合いを行うことは、就学に向けた意識を高めるためにも有効である。また、園内に設置の小学校コーナーを保護者にも見てもらえるように発信することで、家庭内で小学校についての会話のきっかけとなり、保護者の就学への理解を深めることや子どもの小学校就学への期待を膨らませることができるといえる。

(千葉大学教育学部 教授 砂上史子先生)

②「壁新聞」による保護者とのコミュニケーション

<取組内容紹介（宮野木保育所）>

壁新聞やクラスだよりなどを通して、これまでも保護者に向けて園で実施している保育内容を知らせてきたが、保護者からの大きな反応はなかった。

モデル実施園の取組として小学校訪問時の内容について、10の姿を通した子どもたちの学びを写真やエピソードを加えながら、保護者に伝えていくと良いのではと考えた。このことを意識して小学校交流の様子を壁新聞として作成・掲示したところ、親子でやり取りをしながら見る様子が見られた。

保育のねらいと子どもたちの学びをわかりやすく伝えることで、保護者が保育所の理解者になり、協力的な関係作りができるほか、家庭生活の重要性にも関心と理解を深めてもらえることにつながるのではと思う。



【園からのコメント】

その時々の子どもの姿を写真やエピソードを使い、加えていくことで、保護者へのアピールにつながることをコーディネーターからアドバイスをいただいたので、学校訪問時の様子について、それらを意識して壁新聞を作成した。

保護者の方が熱心に壁新聞を見てくださる姿や、親子で会話を楽しみながら小学校訪問の様子について話す姿も見られるようになった。

今後は、壁新聞などを保育者だけで作るのではなく、子どもたちの振り返りの機会を活かしながら、子どもたち自身が作成に関われるようにしたいと考えている。

（宮野木保育所 総括主任 大町先生）

<参考>その他各モデル実施園で行われた取組事例

■アプローチカリキュラムの実践

- ・園内研修でのドキュメンテーション（ビデオ・写真、文書化等）の活用

■小学校との連携・交流

- ・園と小学校の「おたより」（「園だより」「学校だより」等）交換、掲示
- ・スタートカリキュラム期間（入学後1～2週間）における卒園児の様子の参観
- ・学校給食の食器を借り受けての園児への披露
- ・園の先生の小学校訪問による授業等参観
（※可能であれば1時間開始前の整理整頓や着替えの様子なども確認）
- ・戸外活動（散歩等）の際の園児の小学校立ち寄り

■家庭向けの啓発・支援

- ・園への研修講師等来訪時の掲示
（※入口付近に掲示して保護者に園がどんな取り組みをしているか理解してもらう）
- ・年長児保護者向けの就学に向けた「おたより」の配布

<本事例集に関する問い合わせ先>

千葉市こども未来局 こども未来部 幼保支援課

千葉市中央区千葉港2-1 中央コミュニティセンター9階 電話043-245-5100

*市の幼保小接続に係る各種取組は「千葉市 幼児教育推進体制」で検索ください。

（本事例集データもダウンロードができます）

【URL】<https://www.city.chiba.jp/kodomomirai/kodomomirai/shien/youjikyoku-symposium.html>